



令和7年度

# 学校だより

小金井市立前原小学校 校長 小柳 政憲

4月30日発行 No.2

小金井市前原町3-4-22

TEL 042-383-1146

FAX 042-382-2046

HP: <https://www.maehara.school>

## よりよい人間関係をつくるために

校長 小柳 政憲

3月の下旬にこぶしの花が咲いたと思ったら、桜や菜の花が咲きだし、あっという間にハナミズキの花が見られるようになりました。春はいつも目まぐるしく変化しながら初夏へと向かいます。同じように子供たちのこの3月から4月の変化のスピードはとても速いです。

4月の半ばに1年生を迎える会を終えた1年生は、給食が始まったり、避難訓練にも参加したりして、いっばしの1年生の顔つきになってきました。1年生のお世話をしている6年生も、お世話を通して前原小のリーダーとしてのふるまいが板についてきました。どの学年の子供たちも、新しい担任やクラスメイト、進級した学年に慣れ、自分らしさを出せるようになってきました。5月は、遠足や校外学習に行く機会もあり、さらに友達との仲を深めていく月です。体調を整えて、よく知らなかった友達の教室以外で見せるすてきなところに気付いてほしいものです。

いろいろなことに慣れてくるにつれて、集団で生活しているので、当然トラブルも増えてくることと思います。わが子が学校で嫌な思いをしていないか。困っていないか。いつも楽しく笑顔で過ごしてほしい。こういう親心はとてもよく分かりますが、人間関係のトラブルも、大事な成長へのステップです。学校で取り組んでいる行事をはじめとした様々な活動は、子供たちが関わる場、葛藤が起こる場をつくることもねらいの一つなのです。トラブルにどのように向き合い、それを乗り越えていくか。この経験を積み重ねることで、よりよい人間関係のつくり方(社会性)を身に付けていきます。一人では乗り越えられないときに、教師や親と一緒に考えて実行していく。このプロセスをへて、最終的に友達同士で寄り添いながら支え合い、高めあっていくような人間関係のつくり方を学んでいきます。

しかしながら、トラブルがいじめに発展することがあることも留意する必要があります。そうならないためにも、次のようなことを大切にしていきたいと思えます。

**①「まだできない子」「ゆっくりな子」に厳しい叱責をしたり、追い込んだり、罰を与えたりするような強いストレスを与えないこと。**

できる子とできない子、速い子と遅い子のような認識をもたせることが、集団の中に分断を生むことになります。「そのうちできるようになるから大丈夫だよ」という雰囲気をつくりません。

**②「みんな仲良く」「全員でそろえる」ことを強調しすぎないこと。**

集団としての秩序は大切ですが、「みんな違って当たり前」「助け合うことが大切」ということを前提にして繰り返し伝えていくことで、集団の中に互いを尊重する文化をつくりません。

**③日常的な交流の機会を設けること。**

いじめは、他者のことをよく知らず、相手を羨ましく思う感情から生まれることがあります。他者理解を深めるためにも、授業をはじめ、多くの場面で対話の時間をつくり、対話のスキルを高めていきます。

学校と家庭で共に同じ方向を向いて、低学年のころからこれらのことを積み上げていくことで、いじめを防止しながら、友達とのよりよい人間関係のつくり方を学べる環境を整えたいものです。子供時代を子供らしく、のびのびと自分らしく生きることができるよう。